



学校だより

10月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ryokuenhigashi/>

泉区緑園五丁目28番

TEL (811) 6710

「変わる」と「変わらない」もの

副校長 山下 謙一郎

朝晩はずいぶん涼しく感じられるようになりました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、いつも学校教育へのご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、緑園義務教育学校の開校に向けて、この秋より校舎や校庭での大規模な工事が始まりました。最初にとりかかるプール工事では、1年生から9年生（中学3年生）が使用できるような設備のあるプールに生まれ変わります。慣れ親しんだプールとお別れをするために校庭にフェンスを張ったため、校庭もずいぶん狭くなりました。どんなプールに生まれ変わるのか、期待に胸を膨らませ、フェンス越しの工事の音を聴きながら学習したり、遊んだりして過ごす子どもたちの姿が見られます。

また、新校舎にはこれまで以上に子どもたちが学習や生活において過ごしやすい環境のために配慮した設備が随所に散りばめられる予定です。それまでの間、子どもたちや保護者の皆様、また地域の皆様にはご不便、ご迷惑をおかけいたします。どうぞこれまで同様にご理解、ご協力をお願いいたします。

令和の時代に、新しい学校に生まれ変わろうと様々な「変化」がある一方で、私はこれまで緑園東小学校の学校教育で培ってきたものを振り返り、これからの時代に残していきたいものを吟味していくことも大事だと考えます。

先日、一年生の教室の前を通った時に、中庭から子どもたちの大きな声が聞こえてきました。何かあったのかと思い、慌てて駆け寄ってみると、大きなバツタを嬉しそうに捕まえている子どもとその周りで嬉しそうに微笑んでいる友達がいました。「先生見て！これショウリョウバツタ！ショウリョウバツタってね、えさは・・・」と満面の笑顔でバツタについていろいろと教えてくれました。私も嬉しくなって「すごいね～。まだいるかな？」と投げかけたところ「うん！絶対いる！よ～し、みんな！もっと探そう！」とさらに活動に没頭する姿が見られました。一人の輝く姿がみんなの輝く姿につながる、これは学校という場所で集団生活を送っているからこそ生まれる学びの姿です。

プログラミング教育、英語教育とこれからの学校教育は大きく「変わる」変革期を迎えます。ただ、これまでの学びで培ってきたものをすべて変えるわけではありません。松尾芭蕉が残した言葉の中に「不易流行」という言葉があります。「不易」とは、いくら世の中が変わっても変わらないもの、変えてはいけないもの、「流行」とは世の中の変化とともに変わっていくものという意味です。教育の世界ではずいぶん昔から使われてきた言葉ではありますが、今まさにこの言葉が当てはまる時期となりました。今の子どもたちに本当に必要な学びとは何だろうと常に自問自答しながら、これからの学校教育のあり方を探っていきたいと思えます。

